

アンケート 集計

NO1

子どもの権利条約フォーラム2002 in ちば

回収19枚 (子ども0枚 若者6枚 大人13枚)

1. 12月7日オープニングプログラムについて

(堂本知事との対話 ペルーの子どもたちの報告 子どもの表現交流)

- ・知事はすばらしい人だと思いました。ペルーの子を通して世界が垣間見えました(24歳大学生)
- ・堂本知事は国会議員の時に、子どもの権利条約について動いただけあって、権利条約の本質がわかっておられ、是非県政に生かしていただきたい。知事が参加されたことはすばらしい。(47歳)
- ・堂本知事が参加できた意味は大きかった。後援がたくさん市がとれていたが、子どもたちにはどの程度届いていたのだろうか。生の子どもの声が聞けたこと、参画という言葉でみえなくなる子どもの実態が、子どもの声、姿で感じられたことはよかった。ペルーの子どもたちが、自分で考え、意見を言葉で伝えられるすばらしさを思った。公の場で、言葉という手段を通じて相手に伝えられない日本の姿(子ども・大人)今のいろいろな問題につながっていると思った。(大人)
- ・ペルーの子どもたちの話。貧しい国とのことですが、その中でしっかり自分たちの権利を主張し、意識改革をしているところの話しに驚きました。日本の方が豊かなのになぜか心の豊かさが伴わないように感じました。(50歳)
- ・堂本知事との対話は、もう少し対談というかたちでもってほしかった。(19歳)
- ・堂本プロジェクトよかった。不登校の子どもたちが言ったこと印象に残っている。ロックソーラ ンうまかった。ペルーの子どもたちの話感動しました。権利ということをここまではっきり考えないといけない厳しい状況があるんだと思いました。若年13歳のリサンドロ君が12000人のリーダーとしての貫禄に感動!(大人)
- ・堂本知事との対話。知事は子どもたちを人間として大切に接し、誠実に対話に応じてくれてよかった。ペルーの子どもたちの話は、働く権利のために子どもたちは連帯して活動している子どもに対して本当に感動しました。立場は違っても、子どもの権利条約が世界の子どもたちを守ることは違いないことを痛切に思い、日本の子もペルーの子も、その世界で主役のひとりとして精一杯生きていける大切なものであると思う
- ・堂本: 子どもたちがよかった。知事も雰囲気よかったです。不登校の子の話などたくさん話題があってもっと時間があり、話しあえれば楽しいなあとと思いました。(17歳)
ペルー: すごい話しでした。聞けてよかった。子どもの権利は子どもたち自身からも声をあげていかなくちゃ。なかなかむずかしいものですね。あたりまえですね(17歳)
- ・この知事で10年経ったら千葉もよくなるかもと思われるよい集会でした。
- ・堂本さん、逃げ腰の答えにゲンメツ。次は落選だね。表現多くてよいが、別の会もあってよいかと。(20歳)
- ・自分たちの置かれている状況を知り、意識的に語れる子どもたちに感動を揺さぶられました。日本の子どもたちも皆各々にとてもしっかりしている印象をもちました。こういう対話のできる知事を選んでよかったと思います。

- ・今までになかったおもしろいオープニングでした。(29歳)
- ・堂本知事との対話。パネラーのみなさんの発言、とっても発声がしっかりしていて堂々と気持ちを話され、とても趣旨が伝わりました。ここに出て来られない多くの子どもたちの声もきっと代弁していると思いました。差別、学び、平等な経済的なことなど、どれも人権に関する大切なことでした。堂本知事が真正面から受けて立たれた大人としてお手本にしたいと思いました。
表現：やっぱり表現っていいなぁ。みんな輝いていました。ペルーの報告は、日本の現状から見れば非常に厳しい社会で生きている子どもたちでしたが、連帯して働く権利を主張する姿は、堂々として説得されました。でもやっぱり大人社会は子どもたちを6歳から働かせてはいけない！
(54歳)

2. 12月8日 分科会について

- ・第1分科会に参加。子どもの熱が感じられてよかったです。良い刺激。
- ・第15分科会。親の痛みが感じられて勉強になりました。教師として避けて通れません(24歳学生)
- ・午前武力紛争 午後ペルー。両方とも活動家に方から、生の現地情報を知ることができた。特にペルーのWSでは力強く活動する子どもたちに出会え、エンパワーされた。また、子どもの参加のポイントを教えてもらい、ヒントとして生かしていきたいと思う。(23歳)
- ・第一分科会 若い世代の講演で新鮮だった。時間は足りなかった。午後のことも決めていたので残念だったけれど、「大人の支援」(大人の文化、大人の価値との戦い 子どもが権利を持つ主体として信じるのが大事)のところに、子どもがいてとてもよかった。学ぶところがたくさんありました。ペルーのエステルさんの言葉が印象的。ありがとうございました。(大人)
- ・第13分科会。子どもが働かなくてはならない現状だから労働し、正統な賃金をもらうため、不当な搾取と戦う、社会変革をするという言葉にはびっくり！！13歳のリサンドロの胸を張っての発言を受け、さて、日本の子どもの権利はどうかしら？日本はがまんとか、長いものにまかれろとかいう考えがまだ主流で、自己主張するのがヘタ、あるいは権利意識が育っていないなぁと思います。私自身も(でもそれが日本の教育なのかな？とも思います。)(50歳)
- ・いろいろな人と話せてよかった。(19歳)
- ・第8分科会。若者の話しがとてもよかった。お母さんの話しも共感できる(大人)
- ・第14分科会。新田目さんの体罰の話、正確におっしゃった。誠実な話と思った。(大人)
- ・第8分科会。よかったです。認めてもらうって大事です。当事者が発言できる場がもっとふえればいいなぁと思います。(17歳)
- ・恩寵園の分科会。すばらしい集会でした。子どもたちから話してくれたことが一番。そして市民として関わってきた浦島さんたちの話しは感動的でした。。子どもの権利条約の意義を最終的に確認できたすばらしい勉強会になったと思います。
- ・発言をミスって少々はずかしい。めしを食わせろ！(時間がない)(20歳)
- ・これから何をしたらよいか課題をもつことができました。
- ・第7分科会。テーマが色々あって肩ひじはらずに権利について地元ネタetc楽しかった。(29歳)
- ・子どもとあそべたのがよかった。全体会がとてもよかった。今後に期待します。(39歳)

- ・第8分科会。不登校を選択した若者2人、親の立場すらの3人の話がよかった。当人も親も世間の偏見で疲れた後、自立・自律した生活を送っていることがステキでした。当事者発（どんなものでも）大事だという証拠ですね。恩寵園の分科会も同様に、当事者、直接関わっている人の話がいいです。（54歳）
- ・最後の閉会の会で感じたこと。その趣旨はよかったしおもしろいも同感しました。苦言をあえて言わせてもらいます。司会の2人ががんばっておられることはよく伝わってきました。…がとてもがんばっているのがわかるだけに、根回しの必要はないけれど、最低限の事前準備は必要なのではないでしょうか。学校制度の中にいると、大人（保護者 教師）たちが、用意したものに参加するだけの経験が多くなる（管理される側の体験が多い）ゆえに、事前準備＝根回しと誤解するのも理解します、十分に。司会の2人が指名して話す子は圧倒的に顔見知りが多い。山本君のするどいナイスツッコミがあり、評価させてもらいたいです。大人の準備に対する異議申し立てが、何も準備していない行動に通じたのだろうかあと私には感じられました。この点を関係者（子ども実行委員各位）がどう感じているか…、事実確認も含め話を聞いてみたいおもしろいが、1日目より2日目という風に強くなってきました。人権侵害・差別とは、世間のどこかにあるのではなく、人の心（無意識下）にあるものです。ひとりひとりが自分自身に問いかけてみてほしいと思います。私も常に差別していないか、自身に問いかけています。（54歳）
- ・第12分科会。パレスチナ、カンボジアの紛争渦中、あるいは戦争が終わって社会が深い悩みを加えた社会の子どもたちの生々しいビデオ、Voiceの取材報告を聞くことができました。ゲームをしたり、リラクセスの体操をしたり、皆に発言を求めたり、ファシリテーターもとても工夫されていて楽しく学べました。（54歳）
- ・子育てで言いたい放題。とても内容の濃い分科会でした。あっという間の2時間だった。他の分科会にも参加したかった。（大人）

3. その他

- ・濃い2日間でした。また何かの機会によろしくお願いします。（24歳大学生）
- ・実行委員会から多くの子どもがかかわり、当日もこんなにたくさんの子どもの参加があるとは思いませんでした。これをスタートに子ども自身が権利の主体であると意識して動き出す子どもが広がっていくことが大事です。大人として応援したいと、またいっしょにやりたいとおもっています。（47歳）
- ・フォーラムはたくさん分科会があるので、いつも何に出るか迷います。けれどもNPO、NGOだけでなく、様々な子どもに関わる人に出会えるのが魅力です。おつかれさまでした。（23歳）
- ・千葉県子どもの人権条例を実現する会の賛同団体になります。（柏子ども劇場）スタッフのみなさん・たくさん子どもたちへ どうもありがとうございました。三森君次のWAVE楽しみにしています。（大人）
- ・不況 リストラ 相変わらずの搾取と、あんまりいい世の中ではありませんが、私も自分をみつめてできることから一歩踏み出そうと思っています。（50歳）
- ・ごくろうさまでした。
- ・多くの出会いができて全体に大成功と思います。（大人）

- ・ピンクのジャンパーばくもほしかったなあ（20歳）
- ・もっと多くの方に参加をよびかければよかったと思いました。毎回思うのですが、個人的な参加ばかりで失敗でした。
- ・現場の教師の多くの参加がほしかった。案内のチラシを学校に配布したのだろうか。民のパワーを高めていかなければいけない。千葉県では教師に「子どもの権利の学習をさせているのだろうか。（大人）
- ・青年のPRをしてほしかった。（39歳）
- ・様々な事情でお誘いしても参加できなかった身の回りの方に、本などを買って読んでもらったりお話ししたいとおもっています。（54歳）
- ・ぼんやりしていたことが、明らかになってきたり元気をもらったり。お疲れさまでした。だたよく通る場所に喫煙コーナーがあるのは少し不満。かぜ流行の今、ノドにきます。（37歳）
- ・準備 企画等、スタッフの方々ごくろうさまでした。こういう機会を与えてくださって感謝しています。（大人）

全体をとおして

- ・まず、自分は子どもでも大人でもない微妙な立場にいると思う。24歳、かといって働いているわけでもない。強いていえば「若者」であろうか。子どもの動きを「支援」というよりは、良きパートナーシップを発揮できる人間になりたいと思った。来春から私は教師になる。今回のフォーラムは教育がテーマであるにもかかわらず、学校・教師の存在は敵視されているモノ、もしくは全くあてにされていないモノとして私の目には映った。私にとっては良き学びの場、良き師との出会いの場であった。学校がもはやそのような目でしかみられなくなりつつあることに、大きな悲しみと嘆きと憤りを感じた。私はまだ現場に出ていないので、偉そうなコトを言っても説得力がないかもしれませんが、「コレカラの学校・教師にも期待してください！」良きパートナーシップを築いていきましょう！（24歳大学生）



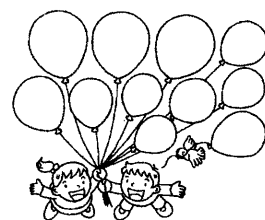
画期的なとりくみ！10代の子どもや若者の参画

武智多恵子

第10回の記念すべき子どもの権利条約フォーラムを、千葉県で行うことができ、本当によかったと思います。市民NPOの力が期待され、子どもの社会参画が叫ばれている中、千葉から世界に向けて市民や子どもの力を発信しようと「千葉発 Kid's Rights Wave～子どもと市民の参画で世界は変わる～」をテーマに掲げました。実行委員会には県内の子どもの人権にかかわる団体や個人、さらに10代の子ども・若者60名がかかりました。10代の子どもたちも主体的に参画する場が実行委員会の段階から保障されたことは、開催した私たちとしては自負できることであり、フォーラムのひとつの試金石になったように思います。また、様々な人権侵害の体験や人権を考える切り口をもった団体や個人が初めて出会い、子どもの権利や人権に関するたくさんの発見や示唆がありました。2日間の企画の内容も、各々の団体や個人の特性を生かした多彩で興味深いものとなり、堂本知事との対話やペルーの子どもたちの出席等、ひとつの団体では到底できなかったことを、力と知恵を寄せ合うことで実現できました。参加人数が延べ1100人を越え、その内の400人が子どもや若者でした。フォーラム以降、つながりができた子どもや若者たちが自主的に交流を続け、子どもの人権条例づくりなどに積極的に参画し、力を発揮しています。

1994年、「子どもの権利条約」の批准以降、子ども自身がこの条約をどのくらい知り理解したのか、そしてどれほど社会に生かされてきたのか、子どもの権利や人権がだんだん風化しているのではないかと、一抹の不安を感じていたところでしたが、このフォーラムで主体的に子どもや若者が参画する姿から、その不安を払拭することができました。子ども・若者・大人が共に『人権』について、社会に発信し、理解のための行動をしていかななくてはならないことを教えられました。

このフォーラムを単に行事に終えることなく、千葉発のWaveに乗せて、エンディングで申し合わせた『しめない まとめない おわらない』を、次の開催地「川西市」にぜひつなげたいと思います。川西市の皆様、どうぞよろしくお願いいたします。



“子どもの権利条約フォーラム in ちば”を終えて 奥地圭子

「子どもの権利条約」という子どもの幸せのための素晴らしい武器を、日本政府が批准して10年目の2002年、全国を回ってきたフォーラムが、地元千葉で行われたのがまず嬉しいことでした。千葉は、かつて「一に愛知、二に千葉」と言われたように、管理教育で有名な県で、多少変わってきたとは言え、いまだに子どもの人権侵害は後を絶ちません。この状況を少しでも変えるためにも、また、このフォーラムを实らせようと普段共に活動することの少ない、いろいろな子ども関係の団体が出会い、協力するためにも、何かできればと、武智さん、喜多さんと共に委員長をお引き受けしました。私は、ささやかなことしかできませんでしたが、今年の特徴として、実行委員会に子ども・若者が最初から入り、企画・準備に力を発揮したこと、事務局体制がしっかりしていたことなど、フォーラムを成功に導いたと思います。また、市民派知事と言われる堂本さんが、ご多忙な中、直接お出かけくださり、子ども・若者との対話実現に協力いただいたこと、千葉県下の市町村・教育委員会など行政の後援が、かつてないほど得られたことなどもうれしいことでした。

さらに、ペルーの働く子どもたちの全国組織「ナソップ」のメンバーの登場は、分科会で行われた「紛争下の子どもの問題」と合わせ、国際的な視野で子どもの権利を考えるフォーラムとなり、大いなる刺激と活力を得ました。反省点として、子どもの権利条約そのものの理解や現段階の位置がわかるプログラムがほしかったし、県下、いや全国の子どもたちの関心を高めることが、これからの課題と感じました。

ともかく、1000名を超えた参加者の皆さん、準備に関わった諸団体や実行委員の皆さんに心より御礼申し上げます。そして、このつながりや関心を、日常の変革に生かそうではありませんか、と呼びかけたいと思います。フォーラムは、それでこそ意味を発揮すると思います。次年度、川西市での開催を楽しみにしています。



子どもの権利条約フォーラム IN ちば

行政との協働への大きな一歩

—10年目をむかえたフォーラム—

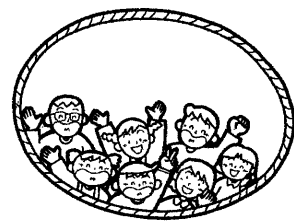
喜多 明人

1990年代子どもの権利条約時代に入ってから、子ども支援NPOが急成長を遂げてきました。その象徴的なイベントが「子どもの権利条約フォーラム」でした。発端は子ども支援の活動に取り組む実践家の経験交流、意見・情報交換の場をつくろう、ということでした。1993年に始まるフォーラムの具体化に当たっては、子どもの権利条約の実施と普及のために、これまで別個に進められていた国内の子どもNGO・NPOと国際協力NGO・NPOとの交流、子どもとおとなのパートナーシップ的関係の発展、行政との建設的な対話などを重視し、かつできるかぎり地域の課題に応えるように、東京、大阪、神奈川、福岡、群馬、青森、そして千葉の7都府県で開催されてきました。

今年は、とくに「日本子どもNPOセンター」の設立もあり、子どもNPOとしての成長とその独自の役割への期待感が高まり、それにともなって行政との連携・協働への展望も開けてきたと思います。その点で今回の千葉フォーラムでは、堂本暁子千葉県知事の参加および史上最大数の後援自治体の獲得は画期的な出来事であるといつてよいでしょう。

地域における子どもの権利実現の取り組みは、NPOだけでも、行政だけでも立ち行かなくなっています。このフォーラムを契機として、相互に独自性を発揮することで21世紀千葉の子ども支援活動が飛躍的に前進していくことでしょう。

フォーラムは、ゴールではなく新しい地域づくりの出発点です。延べ1000人を越える人びとの“つながり”こそが、これからの“千葉における子どもの権利実現”の土台であり、そこから新たな出会いや可能性、無限の世界が広がっていくことを心から願っております。



●賛同人202人

荒牧 重人 安藤 弘美 天野 隆 荒木 雅子 荒井 史江 秋元淳一郎 赤池 悦子 安部 芳絵 秋元 安子 市川 まり子 磯辺 慶子 石原 啓子 伊藤美智子 岩淵比呂美 石澤 和子 岩崎 長久 一番ヶ瀬康子 石場 民子 石井 妙子 猪股 悦子 岩橋 百合 池口 紀夫 伊藤 義明 五十嵐智美 入江 晶子 伊藤 とよ 井上さくら 板垣 光子 池田祥太郎 石橋 修 内田 塔子 内山 和枝 浦島佐登志 大川内秀人	浦島 菊代 大森由里子 大森 淑子 大村 吉郎 大谷千代美 大森智恵子 大場 博子 岡田 泰子 岡田 静子 大野 博美 奥地 圭子 岡野 友子 太田和秀明 奥山 昌義 門田見昌明 加藤 久子 片野 令子 勝又 国江 勝又千佳子 鎌倉 淑子 加賀屋弘美 亀村 桂子 片桐 哲郎 柏原 照美 釜石 典子 川本 泉美 加藤 智子 川田佐智子 勝部かをる 菅 源太郎 喜多 明人 北 千加枝 桑原 信子 蔵原 清人	桑田 尚子 黒木 裕子 倉垣 正子 小林 良子 小島真理子 小宮山洋子 小宮山健治 小宮 清子 小林 祐也 河野 優司 小西 正江 小高 純子 小島 哲雄 佐藤 幸子 斉藤まり子 斉藤 雅代 さとうももよ 佐藤 邦子 下村小夜子 下村 功 柴田ゆかり 下平 良子 白谷ミツル 塩沢 千秋 椎名 好子 志村 英子 菅井 理恵 鈴木 佳子 鈴木はつみ 鈴木由紀子 鈴木 芳子 関川ゆう子 関 由美子 曾根崎国子	武智多恵子 田中 令 田家ふみえ 高木 正 高橋真理子 高橋てる子 高山 雅子 竹内 悦子 武田 志保 高見美保子 谷口 多恵 高野 晴美 谷垣 鈴代 高村リュウ 田代 布子 千田 博己 津田 玄児 堤 佐知子 鶴岡 礼子 塚原 彩子 津軽いずみ 辻 さつき 常賀かづ子 寺内 裕子 豊田 欣子 豊島由紀子 豊倉さと子 戸田由紀子 富吉 美香 富田みどり 中原 淑美 中村 崇 中村 雪江 中村 勝彦	中村 春子 中台ヒデ子 並木美香子 中村久美子 西田 葉子 錦古里久子 西中間栄美 能田 周子 野口 善國 野村 圭子 林 眞紀恵 服部 和子 羽仁 協子 羽仁 結 長谷川勝子 長谷川 孝 長谷川一郎 原田 幸 長谷川弘美 羽鳥由美子 平田 美貴 古沢 常雄 藤下 久子 福谷 章子 藤田 昌士 藤井 幹夫 藤木 武夫 本間 敏子 堀井 光江 堀江 啓子 松下 幸枝 黛 孝子 松倉 聡史	槇 啓巳子 松本 修一 宮沢 友子 峯岸 赫子 宮下 順子 道端 園枝 宮部 恵子 宮口久美子 三輪美智子 森川 寿末 守田 泰子 森越 智子 山口 英二 山田由紀子 山田久美子 矢倉 久泰 山田 晴子 山口 晴美 山口 幸子 八田 幾子 山田 美穂 山根 麻紀 山本 幹子 山内 洋 矢田 房子 山崎 邦子 湯浅美和子 米田 修 好光 紀 吉田みどり 吉川 久子 渡辺恵美子
--	--	--	---	--	---

●賛同団体63団体

子どもの権利条約ネットワーク CAPかわさき NPO法人チャイルドライン支援センター NPO法人子ども劇場全国センター (社) 神奈川人権センター (社) 子ども情報研究センター 劇団風の子東京 (財) 日本YMCA同盟 NPO法人アユス仏教国際協会のネットワーク (社) ずくぼんじょ松の実保育園 NPO法人千葉中央おやこ劇場 市民ネットワーク四街道 日野・生活者ネットワーク 稲城生活者ネットワーク 太田・生活者ネットワーク 浦安子ども劇場 千葉県子どもの人権条例を実現すべし 不登校新聞 ちびすけランド共和国 博多市民センター	NPO法人東京シュール 千葉「障害児・者」の権利を親せきする会 NPO法人四街道子どもネットワーク アムネスティインターナショナル小岩 登校拒否を考える会・佐倉 千葉休もう会 NPO法人佐倉こどもステーション NPO法人ならしの子ども劇場 NPO法人市原市こどもセンター NPO法人子ども劇場千葉県センター NPO法人市川おやこ劇場 足立・生活者ネットワーク 国際子ども権利センター 東京・生活者ネットワーク 川西子どもネットワーク 世田谷・生活者ネットワーク 横浜市立高等学校教職員組合 NPO法人松戸子ども劇場 NPOフリースクール全国ネット NPO法人子どもネット八千代 共に教育を進める千葉県連絡会	こどもプラザ成田 さくら・市民ネットワーク NPO法人緑区子どもサポートセンター 日本キリスト協議会教育部 市民ネットワーク・千葉県 NPO法人船橋子ども劇場 (社) 部落解放・人権研究所 学校災害から子どもを守る全国連合 子どもの権利条例東京市民フォーラム めぐろチャイルドラインを進める会 目黒生活者ネットワーク NPO法人野田子ども劇場 千葉こどもサポートネット 市民ネットワークちば 杉並生活者ネットワーク子ども部会 小平・生活者ネットワーク よこはま定時制父母の会 狛江・生活者ネットワーク 鎌ヶ谷おやこ劇場 子どもと教科書全国ネット21 町田・生活者ネットワーク
---	---	---

●協賛団体 6団体

日本評論社 エイデル研究所 大月書店 あかね書房 草土文化 三省堂

子^{川崎発}どもの権利条例



日本が、国連・子どもの権利条約を批准して丸8年。はたして、子どもの権利条約が十分に受け入れられて、子どもの権利実現が進んだのか。いじめ苦悶の深刻化、子どもへの虐待、体罰あるいは誘拐・監禁など、おとなからの人権侵害行為が後を絶ちません。条約が十分に活かされてきたとはいえ、日本の子ども達が救われていないことは確かです。

その中で、大きく前進し、成長してきたが自治体、NPO・NGOの存在です。特に「川崎市子どもの権利に関する条例」は、21世紀の子どもの権利実現のための取り組みとして1つの基本的な方向性を示す動きとして注目されています。本書では、その「川崎市子どもの権利に関する条例」を徹底解説しました。

A5判
定価2400円

子どもの権利条約総合研究所 編

エイデル研究所 102-0073 千代田区九段北4-1-11 TEL03(3234)4641 FAX03(3234)4644

●自分も他人も大切にできる子に——人権の大切さを実感できる絵本

人権の絵本

喜多明人・岩川直樹 編

満川尚美・岩辺泰史 編

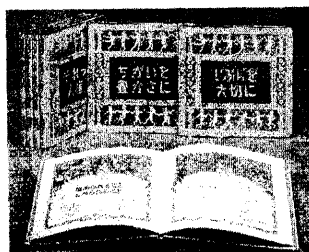
木原千春 絵

A4判変型・各1800円
セット価10800円

「自分を大切にできる人は、他人も大切にできる」——さわやかな絵と詩的な文章で、子どもたちの感性に訴えながら「人権とは何か」が、心にしつかりと根づくユニークな絵本。

全6巻

- ① じぶんを大切に
- ② ちがいを豊かさに
- ③ それって人権?
- ④ わたしたちの人権宣言
- ⑤ タイムトラベル人権号
- ⑥ 学びの手引き



●本書をすいせんします
イーデス・ハンソン
この絵本を開いて、子どもだけでなく、大人もナルホドとうなずき、ホッとするかもしれない。

●平和をつくりあう道をさぐってみよう

新シリーズ刊行開始

平和と戦争の絵本

石山久男・岩川直樹・目良誠一郎 編

A4判変型 各1800円/セット価10800円

なぜ戦争がおこるのか、戦争をおこさないためにはどうしたらよいかを考え、世界で平和をつくるにはどういう考えや行動が必要なのかを探ります。



全6巻

1・2同時発売

- ① 人はなぜ争うの?
文/岩川直樹 絵/森雅之
- ② 平和ってなに?
文/大野一夫 中村裕美子 絵/石橋重士

以下続刊

- ③ 戦争はなぜくり返される
1月刊
- ④ 非暴力で平和をもとめる人たち
2月刊
- ⑤ わたしたちは平和をめざす
3月刊
- ⑥ 憲法で平和を考える
4月刊

東京都文京区本郷2-11-9 電話03(3813)4651〈代表〉

大月書店

ホームページ <http://www.otsukishoten.co.jp/> 税別価格

子どもの権利条約フォーラム

堂本知事と白熱討論

若者の主張に聴衆拍手

中央区

子供の人權について討論などを通じて考えるイベント「子どもの権利条約フォーラム2002」

(子どもの権利条約フォーラム2002実行委員会主催、千葉日報社など後援)が七日、千葉市中

央区で始まった。初日は堂本晴子知事と若者十人による討論が行われ、約三百人の聴衆を前に白熱した議論が展開された。

このほか、「不登校の子供にもっと寛容な社会

にしてほしい」西中間貴子さん(二二)、「まちづくり」に子供の意見を取り入れた方が住みやすい街になる」山浦彬仁君(一六)などの意見が出された。子供たちの堂々とした主張に、会場からは時折拍手が沸き起こっていた。

フォーラムは今年で十回目。きょう八日は、十七の分科会を開催し、それぞれテーマに沿って話し合う。



武田輝理

森田藤子代表

小林牧人

堂本知事

三森篤志

討論会で、堂本知事に主張をぶつける若者ら
千葉市中央区中央

高校の卒業式で国旗を掲げないと生徒が決めたことを、学校側が認めなかった出来事に触れた富坂友君(一七)は、「自主自立の校風に基づけば、生徒の決定を尊重しないのはおかしい」と主張。堂本知事は「生徒と先生が対立した場合、両方とてことん話し合って決める必要があると思う」と答

校務主任の秘書室に、
千葉菜穂の公平書
校で1990年代の
起きたわが子(2冊)
中学生のいじめの
件訴訟で、原告を
つめた太田義和
んも壇上になっ
た。

太田さんは「あ
を作った」
子にも理由を
ても、本当の
話でこれな
初め、事件が
校が危険な
な場所であ
子どもの人権が

三省堂の教育関連図書

解説教育六法 2002

解説教育六法編修委員会「編」 学習実務に直結した解説つき教育六法の最新決定版。
★追録贈呈 2,500円 平成14年版

三省堂新六法 2003

平成15年版 永井憲一ほか「編」
1,500円

三省堂憲法辞典

大須賀明・栗城壽夫「編」 4,200円
樋口陽一・吉田善明

フィールド・ノート 子どもの権利と育つ力

安藤博「著」 子どもの生きる力を育むために 大人・地域・学校がで
きる実践への手がかりをわかりやすく提示。
2,400円

講座現代教育法「全3巻」

日本教育法学会「編」
各4,000円

学問の自由と大学の自治

伊ヶ崎暁生「著」 2,500円

在学契約上の権利と義務

「個人の尊重」を中心にして
中野進「著」 2,000円

「甘い」指導のすすめ

学校は24時間営業か
柿沼昌芳「著」 1,800円

子どもの参加の権利

「市民としての子どもと権利条約」
喜多明人ほか「編」 2,500円

教育法学と子どもの人権

市川須美子ほか「編」
3,000円

教育法と法社会学

今橋盛勝「著」 4,000円

提言「子どもの権利」基本法と条例

日本教育法学会子どもの権利条約研究特別委員会「編」
2,600円

〒101-8371 千代田区三崎町2-22-14 ☎03(3230)9561 (宣伝) <http://www.sanseido-publ.co.jp/> ※税別価格

「子どもの権利条約」は、子どものための世界の約束！

よくわかる「子どもの権利条約」事典

まんがで学習シリーズ

喜多明人・文
内田玉男・画

「子どもの権利条約」は、子どもの権利を守るためにつくられた、世界中の国と国との約束です。日本も、1994年4月に条約にぐわりました。この本は、身近な子どもの生活の中から、子どもの権利にかかわるテーマを、まんがと文章でわかりやすくまとめたものです。定価(本体1,165円+税)

あかね書房

〒101-0065 東京都千代田区西神田3-2-1 TEL.03-3263-0641 FAX.03-3263-5440
ホームページ <http://www.akaneshobo.co.jp/>



父母と教師を結ぶ雑誌●日本子どもを守る会編集

月刊 子どものしあわせ

わが子の小学校生活にちよつと不安なお母さん
いっしょに読んでみませんか?
A5判77ページ(平常号)・毎月1日発行
定価=510円(税込・送料68円)
年間購読料=6,120円(税込・送料816円)
見本紙送呈(送料実費1冊20円)

国民運動の指針として定評ある民間白書。

子ども白書2002年版

特集●人間回復のための「つながり・ぬくもり」
つながり・ぬくもりの今日的意味/平和の文化・非暴力の文化を脅かすもの/ニューメディアとヴァーチャル・コミュニケーション/体験学習の広がりの中で「体験」の質を問う/子どもの居場所づくり ほか
日本子どもを守る会=編
A5判/342ページ/本体2,500円+税

草土文化 〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町560-8
TEL.03-3204-4811 FAX.03-3204-4818
振替・00150-9-46122

実践と研究をつなぐ総合理論誌

子どもの権利研究

Children's Rights Journal

子どもの権利条約総合研究所／編集 本体1,905円＋税



創刊号 特集＝子どもの権利の総合的保障と学際研究

“実践的子どもの権利学”への道 喜多明人
子どもの参加の権利研究の到達点 田代高章
司法から見る子どもの権利・人権研究 黒岩哲彦
自治体子ども施策と子どもの権利研究 荒牧重人
ヤヌシュ・コルチャックの子どもの権利思想 塚本智宏
アメリカにおける生徒の権利 松倉聡史
少年事件調査制度と子どもの権利 岡田行雄

親の養育責任を支える社会システムと少子化 藤原千沙
国連子ども特別総会における子どもの権利の争点 平野裕二

判例研究●「最高裁学力テスト」判決／「箱プランコ」判決
調査研究●日弁連少年聴き取り調査／中学生学習権調査／自治体子ども計画調査
文献研究●井上仁著「子どもの権利ノート」
子どもの権利研究文献目録（教育・法律・福祉・心理・建築等総合目録）

第2号 03年1月刊行予定

総特集＝「自治体子ども施策と子どもの権利」

子ども条例の意義と制定、実施の課題
川西市・箕面市・川崎市

自治体で取り組む子ども救済
埼玉県・神奈川県・東京都・青森県

自治体が進める子どもの参加・参画

宮城県・近江八幡市・滋賀県・鶴ヶ島市・高浜市・豊中市・中野区

総合的な子どもの権利条約づくり

小杉町・多治見市・日野市・高知県

いまこれから、子ども施策をどうするか
大阪府・国立市・八千代市

【新解説】子どもの権利条約

永井憲一・寺脇隆夫・喜多明人・荒牧重人編

いま日本では、子どもの権利条約はどのように活用されているのか。各条文の意義や現状が各分野の第一人者の解説によって明らかになる。好評だった旧版を再編集し、21世紀に向けて条約実現への指針を提供する。

ISBN4-535-56141-9／四六判 304頁 1,800円

検証 子どもの権利条約

——市民がつくる《子どもの権利条約白書》

子どもの権利条約フォーラム実行委員会編

子どもの権利条約が発効して早や7年、この間、権利行使の主体としての子どもたちはどう動いたか、また国・自治体・地域では？ 国際協力の分野も含め、現場から具体的に検証する。NGOなど200団体のアンケート集計付。

ISBN4-535-56039-0／四六判 320頁 1,700円

学習 子どもの権利条約

子どもの権利条約ネットワーク編
喜多明人・荒牧重人・平野裕二著

学校で地域で「子どもの問題」が深刻の度を深め、新たな行政・司法上の対策が講じられつつある今日、子どもの権利条約をどう活かしていくのか。これに答えるドキュメントと解説方式の斬新な「学習ハンドブック」。

ISBN4-535-56129-X／四六判 352頁 1,900円

子どもオンブズパーソン

——子どものSOSを受けとめて

喜多明人・吉田恒雄・荒牧重人・黒岩哲彦編

いじめや体罰・虐待で、不登校・ひきこもり、キレる子……。ギリギリのところまで彼らが発するSOSを受けとめる相談活動が注目を集めている。川西市の実践や川崎市の取組み、市民の活動を紹介し、全国展開への課題を提起する。

ISBN4-535-51271-X／四六判 352頁 1,900円

解説・国際人権規約

宮崎繁樹編著

採択30周年をむかえ、人権問題解決にますます重要な役割を果たす国際人権規約の実践的活用のため、最新の条文解釈・判例等をまとめた法律家・市民必携の注釈書。国際人権擁護の第一線に立つ学者、弁護士による解説。

ISBN4-535-51080-6／A5判 384頁 3,700円

ウォッチ！ 規約人権委員会

——どこがずれてる？ 人権の国際標準と日本の現状

国際人権NGOネットワーク編
岡本雅幸・上村英明・森原秀樹監修

これまでの規約人権委員会における政府報告書審議を踏まえ、日本の現状、問題をわかりやすく整理・分析し、具体的な課題を提示する。裁判や国・地方行政の政策立案に役立つとともに、次回審議に向けた実践活動の参考となろう。

ISBN4-535-51202-7／A5判 288頁 2,400円

テキストブック国際人権法 (第2版)

阿部浩己・今井直・藤本俊明著

初めての国際人権法の教科書として、刊行以来好評を得ている本書を5年ぶりに改訂。ダイナミックな国際社会の動きをフォローすべく、全体にわたって情報を新しくするとともに、「国際人権法の展望」の新章を設ける。

ISBN4-535-51263-9／A5判 304頁 3,200円



日本評論社

<http://www.nippyo.co.jp/>

〒170-8474 豊島区南大塚3-12-4 ☎03-3987-8621 〆03-3987-8590

子どもの権利条約フォーラム2002 in ちば 記録報告集

発行日：2003年2月28日

発行者：子どもの権利条約フォーラム2002 in ちば実行委員会

発行所：特定非営利活動法人 子ども劇場千葉県センター内
千葉市中央区弁天町2丁目4-25

TEL:043-254-7889 FAX:043-254-7871

編集委員：市川まり子 下村小夜子 武田七生 中村雪江



END

発行：子どもの権利条約フォーラム2002 in ちは実行委員会

〒260-0043 千葉県千葉市中央区弁天町74-2 特定非営利活動法人 子ども劇場千葉県センター内
TEL:043-254-7889 FAX:043-254-7871 E-mail:kidchiba@lily.ocn.ne.jp

